

陽明文庫との覚書を締結！

3月23日（月曜日）、近衛家に伝わる10万点以上の資料を所有・管理する公益財団法人陽明文庫（理事長：近衛忠輝・京都市右京区宇多野上ノ谷町1-2）を田中良杉並区長が訪れ、資料調査や展示などの協力を行う覚書を締結しました。

陽明文庫は、昭和13年11月に、近衛家二十九代文麿によって、設立されました。その近衛文麿は、内閣総理大臣を3度務めるなど、昭和の一時期を大きく動かした人物です。杉並区内には、文麿が愛した邸宅の萩外荘（てきがいそう）が残されています。

文麿の次男の通隆さんが、平成24年に亡くなり、地域住民からの強い要望があった萩外荘の敷地及び建物を、区が平成26年2月に取得しました。萩外荘は、敷地面積が6,071.69㎡で、貴重な屋敷林を今に伝えています。邸宅は、築地本願寺や明治神宮なども手掛けた伊東忠太の設計で、昭和2年に創建されました。その建物を昭和12年に近衛文麿が、入澤達吉（宮内省侍医頭）から別荘として購入したものです。「萩外荘」の命名は、西園寺公望（さいおんじきんもち）によるものと言われています。



3月14日には、萩外荘の敷地の一部をみどりの空間として、暫定開放しました。記念式典には、次男通隆さんの妻の節子さんも出席し、「萩外荘は、主人が生前から行く先を案じていましたので、地域に公園として引き継がれていくことになり、たいへん嬉しく思っています。」とあいさつしました。また、式典終了後、田中区長は「萩外荘を文化財としての価値と昭和の記憶的な価値との両面から、大切にしていく。そのため、近衛家に伝わる資料を所有し管理している公益財団法人陽明文庫（理事長・近衛忠輝）と協力していくことや、国の文化財指定（史跡）を目指していくこと」も発表していました。

3月23日、田中区長は京都市の陽明文庫を訪れ、「杉並区と公益財団法人陽明文庫との交流に関する覚書」を締結しました。覚書によって、杉並区が萩外荘の近代遺跡としての整備を進めていくにあたり、相互の歴史と文化を尊重して理解を深め合い、資料調査や展示などを協力して行うこととなりました。

【報道機関問合せ先】

教育委員会生涯学習推進課 03-3312-2111 内線 1661